

第 2 章

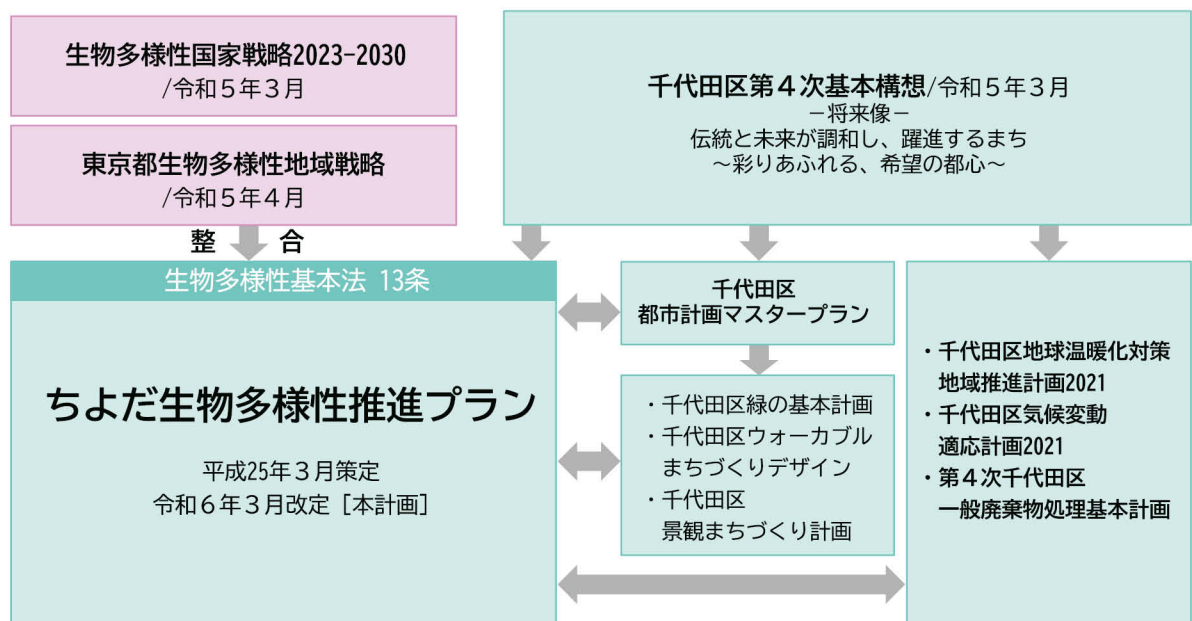
基本的な考え方と目標



2.1 ちよだ生物多様性推進プランの位置付けと改定の方向性

推進プランは、生物多様性基本法に基づき、生物多様性の保全と持続可能な利用の観点に立った施策の方向性を示すものです。千代田区第4次基本構想の分野別計画として、他の部門における各種施策の生物多様性の保全及び持続可能な利用に係る事項については、今後は推進プランの基本的考え方に沿って策定推進するものとします [図 2-1]。

図 2-1 千代田区における推進プランの位置づけ



改定にあたっては、千代田区の生物多様性の現状及び生物多様性を取り巻く国内外の動き、これまでの取組みの成果を踏まえ、2050年将来像、2030年目標、行動計画を定めました。特に千代田区は、世界の社会・経済をリードし、社会課題解決にも積極的に取り組む、さらには国内外への発信力・影響力のある企業が集結する都市です。企業の取組みや、そこで働く人・学ぶ人・観光で訪れる人も含めた区民の取組みの重要性に着目して新規の計画を入れ込んでいきます。

2.2 対象区域

対象区域は行政区域である千代田区全域とします。ただし、対象区域外でも千代田区の生物多様性を考えるうえで必要な事項については、周辺の区や東京都、国の機関などと協力・連携し、地域の生物多様性向上の取組みを推進します。

2.3 計画期間

推進プランの計画期間を2024（令和6）年度～2030（令和12）年度とします。

2.4 目標年

2050年将来像（長期）

2030年目標（近い将来）

生物多様性の保全及び持続可能な利用に関する国の基本計画である「生物多様性国家戦略2023-2030」では、中長期的な目標年を2050年、短期的な目標年を2030年としています。推進プランでは、このような国や国際的な動きと歩調を合わせて目標年を設定します。

推進プランでは、計画推進によって達成することを目指す千代田区の生物多様性の将来像を「2050年将来像」として掲げます。また、2050年将来像に向けた段階的な目標として、近い将来である「2030年目標」を設定します。

2.5 2050年将来像・2030年目標

2050年将来像（長期）

持続可能な自然共生の先進都市になっています

- ・豊かな生物多様性を活用した社会課題の解決
- ・持続可能なライフスタイル・社会経済活動の定着
- ・脱炭素社会の実現

2030年、世界的なネイチャーポジティブが実現し、千代田区では、私たちの賢明な行動によって、生物多様性を損ねることなく、生物多様性の質が向上し、生物多様性の恵みを楽しみ続けられる緑と水辺の豊かな社会が形成され、都心環境の豊かな暮らし・活動を支えています。そして、2050年、千代田区は、将来にわたって、世界をリードする産業経済都市として、また、日々、在住・在勤・在学の区民、観光客など、多くの人が集い、行き交うにぎわいのある都市として発展し続けるとともに、これらのすべての人々に自然と共生する意識が根付き、「生物多様性」を基盤とした社会課題解決・ライフスタイル・社会経済活動・脱炭素社会が将来にわたり続いていく、レジリエントな自然共生先進都市となることを目指します。

2030年目標（近い将来）

千代田区ならではの ネイチャーポジティブを実現します

皇居を核とした生態系のつながりが区内外に広がり、千代田区に集うすべての人が生物多様性を意識した持続可能な行動を選択することで、都心環境の豊かな暮らし・活動が支えられている

千代田区は世界を代表する企業が集積する日本の経済の中心地であり、千代田区の生物多様性保全、社会課題解決には企業が重要なステークホルダーとなっています。ネイチャーポジティブ（自然再興）の実現のためには、行政や区民だけでなく、企業や千代田区で学ぶ人、観光客をはじめ千代田区を訪れるすべての人、一人ひとりの生物多様性の理解を促し、共通の目標に向かって取組みを進め、自然と共生しながら生きものと私たちが住みよい社会をどうつくり、自然を活かしてどう社会課題を解決していくか、私たちの行動を変革していく必要があります。

また、千代田区の生物多様性を保全し、回復させる取組みを進めるうえで、東京23区随一の豊かな自然を有する皇居は生物多様性の核となる重要な存在です。国や東京都、周辺区とも連携して、都市の緑の創出・再生によって皇居の豊かな自然環境を周辺地域に広げ、つなげることで、千代田区を含む周辺地域の生物多様性を向上させることができます。

そのため区は、生物多様性を推進するとともに、気候変動の加速による地球温暖化への対策やヒートアイランド現象の緩和をはじめ、災害対策、環境教育、観光振興、自然とのふれあいなど多様な機能を有する都市における緑地の創出を進めていきます。そして、それらの機能や生物多様性を十分に活かして、社会課題の解決や人々の Well-being の向上などにつなげ、私たちの暮らす都心環境がより豊かになる状態、つまり、千代田区ならではのネイチャーポジティブの実現を目指します。

2050年 千代田区の 将来像



第1章
第2章
第3章
第4章
資料編
基本的な考え方と目標

第1章
第2章
第3章
第4章
資料編

2.6 2050年エリア別の将来像

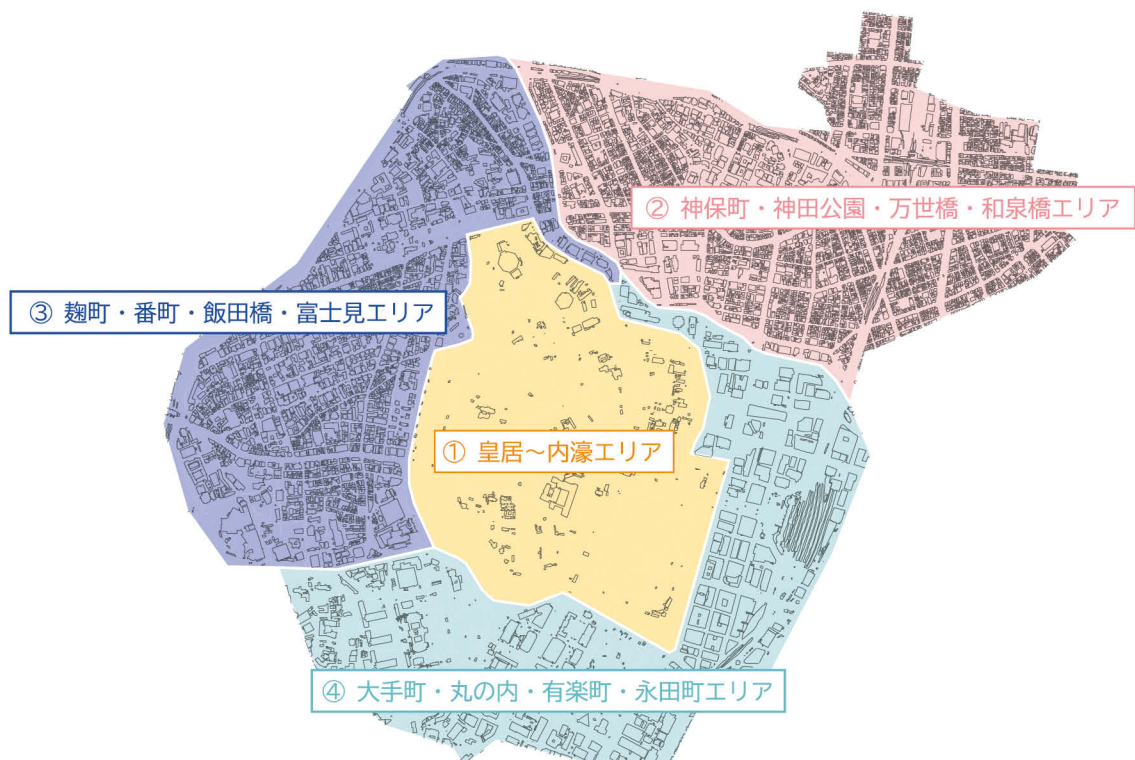
千代田区のまちづくりは、先人達より受け継いだまちの歴史や文化などを最大限に活かして進められてきました。

その結果、千代田区は、歴史的遺構が残る「皇居～内濠エリア」をはじめ、教育機関が多く世界有数の電気街や古書店街として有名な「神保町・神田公園・万世橋・和泉橋エリア」、閑静な住宅街の佇まいの「麹町・番町・飯田橋・富士見エリア」、日本の中核機能を担う官公庁や大手企業が集う「大手町・丸の内・有楽町・永田町エリア」から成り、「歴史性」や「多様性」あるいは「象徴性」を兼ね備えたまちとして発展を続けてきました。

今後は、変化し続けるまちの「新」と「旧」の調和を保ちながら、それぞれの地域が持つ記憶や物語に配慮して、生物多様性を向上させるまちづくりを進めることが大切です。そのため、建物の建替えや大規模開発などを行う際には、生物多様性の観点から在来種を活かした緑地（認証緑地等）や親水性の高い水辺空間の創出を行い、皇居を中心とした生態系ネットワークを区内外に広げるとともに、風水害などの災害対策、暑熱対策、まちの魅力向上、良好な景観形成など様々な社会課題解決に対し、レインガーデンなどのグリーンインフラを活用していきます。また、生物多様性に関する情報発信や生物多様性を活かした地域間交流により地域活性化を推進するなど区民や事業者など一人ひとりの生物多様性への意識や行動を高めることで自然共生社会の実現を図ってまいります。

こうしたことを踏まえ、2050年将来像のもとに、区が施策を講じる地域を4つのエリアに区分した [図 2-2]、エリア別の生物多様性の将来像を描きます。

図 2-2 千代田区の4つのエリア区分



① 皇居～内濠エリアの将来像

江戸城築城に由来する歴史的遺構を基盤として豊かな生物多様性が引き継がれ、多様な生きものが周辺のエリアに広がるとともに、より多くの人びとが、豊かな自然に親しむ場として利用しています。



具体的な将来イメージ

皇居を中心とした生物多様性のつながりを維持しながら周辺の緑地と一体の緑として位置づけられています。



生物多様性が豊かな内濠景観がよみがえっています。



- 国指定の特別史跡に指定されている江戸城や内濠は、歴史的遺産として地形、自然環境、景観を含めた形で引き継がれ、多様な生きものをはぐくむ豊かな自然環境が保たれています。
- 北の丸公園や皇居東御苑に残された良好な自然が広く知られ、在住者をはじめ、学校や環境保全団体などが、自然探勝や環境教育の場として利用しています。
- 皇居を中心とした生物多様性のつながりを維持しながら周辺の緑地と一体の緑として位置づけられています。
- 豊かな自然環境が観光客にも認知され、自然を楽しむ観光が成り立っています。
- 内濠では、外来生物などの駆除と水質浄化の成果により、多くの在来生物が生息しています。
- 水辺の環境が改善され、様々な種類のトンボの生息地が周辺に広がるなど、水辺の多様な生きものの生息・生育地となっています。

行政や教育機関、企業の連携によって、エリアに点在する公園・緑地のつながりが強化され、にぎわいあふれる街並みの中にまとまりのある生きものの生息拠点が多く形成されています。皇居から上野の森へと続く生態系のつながりが強化され、上野の森までを含めた生物多様性が保全されています。さらに、生物多様性に関する情報の発信・交流が活発に行われています。



具体的な将来イメージ



水質の改善と水辺の親水化・河川沿いの緑化により、水辺で自然とのふれあいを楽しむ多くの人がみられます。まちなかでは緑を活かした街並みが維持されています。



屋上・壁面の緑化など、緑化の工夫がまちなかに広がっています。

- 日本橋川や神田川周辺を中心とした水辺や、まとまった規模の開発事業では、これまで以上に緑化が進み、皇居、駿河台、湯島、上野の森にかけての生きものの生息環境のネットワークが形成されています。
- 神田川、日本橋川の水質が改善され、河川は多様な生きものの生息環境となっています。
- 日本橋川にかかる首都高速道路が地下化され、水辺環境の改善が進み、多様な生きものの生息拠点、水辺とのふれあいによるにぎわいあふれる街になっています。
- 学校や公共施設に整備されたビオトープがトンボ類やチョウ類の生息拠点となっています。
- 地場産業を支える中小企業の生物多様性保全への意識が高まり、古くからある街並みに人びとに潤いを与える、生きものが豊かに暮らす小さな緑地があちこちに誕生しています。
- まちづくり協議会が活発に活動し、生物多様性の視点を踏まえたまちづくりができています。

③ 麴町・番町・飯田橋・富士見エリアの将来像

区割りの大きな街並みを活かしてまちなかの緑が維持・創出されることにより、外濠や靖国神社などの規模の大きな緑地との間で、多くの生きものが行き交う生息環境のネットワークが形成されています。



具体的な将来イメージ



皇居から赤坂御用地へと続く緑と生きもののネットワークが形成されています。
自然観察やバードウォッチングなど生物多様性が活かされた活動が盛んに行われています。

生物多様性に配慮した企業緑地がたくさん誕生しています。

豊かな草地在り残されています。

- 企業緑地や街路樹の整備などで、皇居から赤坂御用地へと続く生きものの生息環境のネットワークが連結・強化されています。
- 生物多様性に配慮した緑地や水辺の整備・維持管理が進み、自然共生サイトなどの認証緑地が多く誕生しています。
- ビオトープ等の緑地や水辺を活用して、観察・研究など環境教育が積極的に行われています。
- 国指定の史跡「江戸城外濠跡」は、地形、自然環境、景観を含めた形で保存され、水生植物帯の創出などにより水辺の生物多様性が高まっています。
- 外濠の水質浄化がすすめられ、外濠の水辺景観が回復するとともに、親水性が高い水辺空間が創出されています。



紀尾井町ガーデンテラス



外濠の緑道

各省庁の本庁舎や企業の公開空地を中心に生物多様性に配慮した緑地がつながり、皇居や日比谷公園、国会前庭、日枝神社などとの間に生きものの生息環境のネットワークが形成されているとともに、生物多様性に関する情報の発信・交流が活発に行われています。



具体的な将来イメージ

民間緑地がまちに多く誕生し、周辺区に緑と生態系ネットワークが形作られています。
自転車利用など自然環境に配慮した観光が行われています。



緑を活かした快適な空間とにぎわいのあるまちがつくられています。



丸の内オープンテラス

- 企業努力によって大手町・丸の内地区には生物多様性に配慮した緑地の創出が進み、自然共生サイトなどの認証緑地が増えています。また、緑地整備のほか、生きものに配慮した街路樹が整備され、皇居から丸の内や銀座、日比谷、霞ヶ関にも生きものの生息環境のネットワークが形成されています。
- 全ての官公庁の建物及び敷地の緑化率が民間施設よりも高く、身近な生きものの生息に適した緑化が推進されています。また、生きもののモニタリング調査が定期的に行われ、生物多様性に配慮した順応的な管理が行われています。
- 皇居からつながる公共緑地と民間緑地が港区、中央区の生態系ネットワークと連結されています。
- 生物多様性豊かな公共緑地と民間緑地、それをつなぐ街路樹やまちなかの緑の魅力が来訪者に伝わり、生物多様性を体感する観光利用や快適な空間でくつろぐ人々の姿が盛んに見られます。